

横浜開港資料館 平成 27 年度第 3 回企画展示

その音、奇妙なり

ー横浜・西洋音楽との出会いー

1. 展示会期など

- 会 期 : 平成27年9月30日(水)～平成28年1月24日(日)
会 場 : 横浜開港資料館 新館 企画展示室
開館時間 : 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
水曜日(祝日をのぞく)は午後7時(入館は6時30分)まで開館
観 覧 料 : 一般200円、小中学生100円
休 館 日 : 月曜日(10月12日・11月23日・1月11日は開館)、10月13日、11月24日、
12月29日～1月3日、1月12日
主 催 : 横浜開港資料館
共 催 : 横浜市教育委員会
後 援 : 朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、
日本経済新聞社横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、
NHK 横浜放送局、tvk

2. 展示趣旨など

ペリー来航を機に横浜にもたらされた西洋音楽は、今日まで続く日本の洋楽の基礎となりました。幕末の外国人居留地を描いた浮世絵師は、町に流れる西洋音楽や踊りを見聞し、その様子を興味深く記しています。軍楽隊の喇叭^{らっぱ}の音や、横浜開港によって設けられた外国人居留地における西洋楽器の演奏など、人々は驚きをもってその音色を聴きました。しかし、日本人が、五線譜で記される西洋音楽を理解し、歌い、演奏するためには、西洋の音階に日本語を乗せて歌う方法を編み出すなど、学校教育や音楽家による数々の工夫が必要でした。

本展示では、西洋音楽伝来の地横浜における、「音」の伝来から「音楽」普及の歴史をたどります。

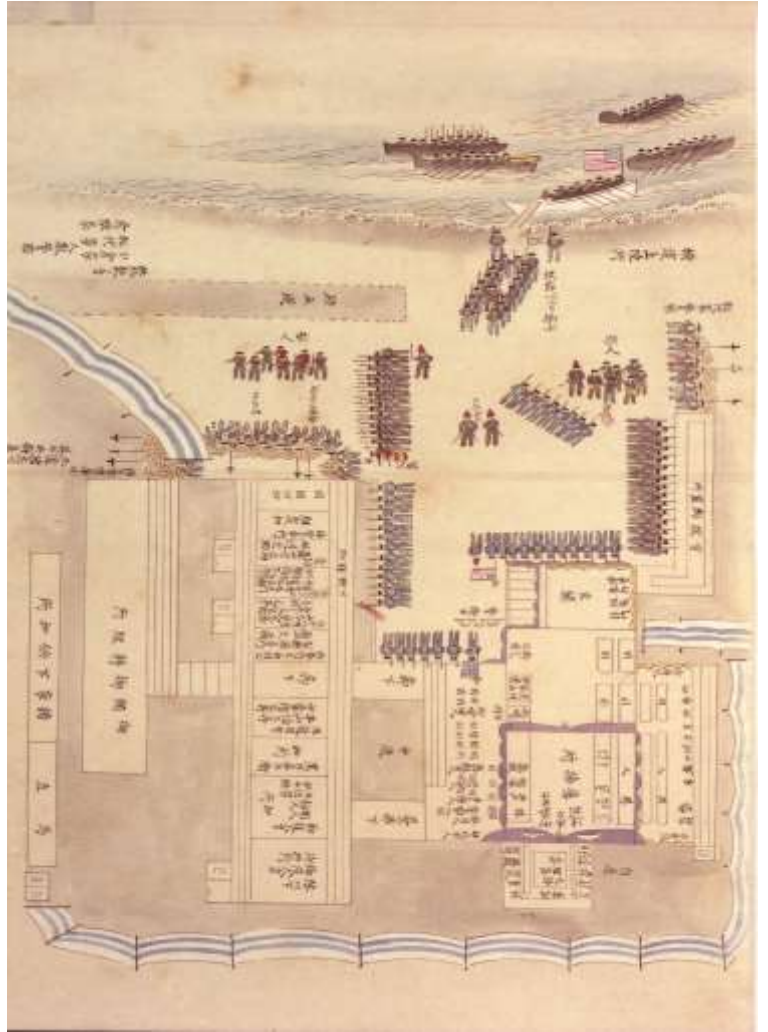
3. 展示構成

- (1) 江戸時代の音
- (2) ペリーの来航と音楽
- (3) 居留地の音楽
- (4) 軍楽隊の創設
- (5) 賛美歌の誕生と音楽教育
- (6) 浸透する音楽—音楽隊の誕生—
- (7) 横浜市歌の誕生

4. おもな展示資料 （全展示数 約 120 点）

●横浜に上陸するペリー一行と応接所 「黒船来航画卷」 当館所蔵

嘉永7年3月3日(1854年3月31日)、ペリーは日米和親条約調印のため横浜へ上陸した。この図は、ペリーの来航時の様子を記した巻物のなかの、ペリー一行と調印場所である「応接所」の様子を描いた部分。上陸地点から応接所にかけてはアメリカの兵士が整列しており、その中に左右に分かれるように2組の「楽人」＝軍楽隊が配置されています。彼らの演奏した音楽が、横浜における西洋音楽の始まりとなった。



●「横浜鈍宅之図」 五雲亭貞秀画 当館所蔵



文久元(1861)年に横浜居留地での「鈍宅」の様子を描いた浮世絵。
「鈍宅」＝ドンタクはオランダ語の「zondag」(日曜日)が訛って休日という意味。軍楽隊を先頭に各国の人々が、国旗やさまざまな楽器を手にして、海岸近くの通りをパレードしています。しかし、右側の開花する桜と中央の軍楽隊の白い夏服が季節の矛盾を示すように、実景を描写したものではなく、さまざまな情報を元に絵師の貞秀が描いた風景である。西洋楽器が奏でる音と軍楽隊の行進という題材が、当時の日本人にとって興味深いものであったことをうかがわせる。

●「明治37年頃の小菅ヶ谷の音楽隊」 伊東亨氏所蔵



日露戦争期、現在の横浜市域の各地で結成された少年音楽隊の様子がわかる貴重な写真。所蔵者の伊東亨氏によれば、明治37(1904)年頃の鎌倉郡本郷村小菅ヶ谷(現栄区)の音楽隊である。

前列に6人、後列に5人の、合計11人の洋装の少年が写っている。左右にかけた5段の紐が特徴的な上着で統一されており、この音楽隊の正装・制服と思われる。少年たちは担当の楽器を持っており、大太鼓(後列右端)と小太鼓(前列右端)が各1個、手風琴＝アコーディオンが3台、銀笛が6本という編成である。

●「横浜市歌(扇面)」 当館所蔵



横浜市歌の歌詞を扇面に印刷したもの。「我日の本は島国よ 朝日耀ふ海に」ではじまる横浜市歌は、明治42(1909)年に開港50年を記念して作られた。作詞は当時、陸軍軍医総監であった文豪の森鷗外、作曲は東京音楽学校の南能衛^{よしえ}。現在まで歌い継がれている市歌としては、日本最古のものである。

5 展示関連事業

●連続講座「音楽で語る横浜洋楽史」(2回連続)

〔講師〕 秋岡陽氏 (フェリス女学院大学学長)

第1回: 11月15日(日) 「ペリー来航と賛美歌の誕生」

第2回: 12月13日(日) 「音楽教育と唱歌の普及」

〔時間〕 14時～16時 (各回)

〔会場〕 横浜開港資料館 講堂

〔資料代〕 1,000円 (一括)

〔定員〕 80名 (応募者多数の場合は抽選)

〔申込方法〕 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入の上、下記住所にお送り下さい。
はがきは1枚につき1名様のための申込みです。

〔宛先〕 〒231-0021 横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館 音楽展講座係

〔締切〕 10月31日(土)必着

* 問い合わせ: 横浜開港資料館 045-201-2100

●記念室公開「ハマの鍵盤楽器～西川オルガンと周ピアノ」

〔日時〕 9月30日(水)～10月18日(日)

〔会場〕 横浜開港資料館 旧館記念室 (旧英国総領事執務室)

6 その他

●10月11日(日)、10月12日(月・祝)は入館無料です。

お問合せ先			
横浜開港資料館	展示担当	斉藤 司・石崎 康子	TEL 045-201-2149
	副館長	西川 武臣	TEL 045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。横浜開港資料館 木許(広報) TEL: 045-201-2100